

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

1. 1年生担当の「経済と経済学の基礎A・B」の改善は、予定通り2008年度より実施されている。また、それに合わせて2年生担当の「経済と経済学の基礎C」についても検討がなされ、改善案がまとまり、2009年度から実施される予定である。
2. 経法連携コースは、予定通り2008年度から導入された。経法連携コース以外のコース制は導入から5年目を迎え、2007年度にはコース制導入後初めての卒業生が出た。これまでの経験を踏まえて2007年度より評価・改革の検討が始まり、2008年度には担当委員会でより具体的に検討され、改革案がまとめられる予定である。
3. TOEICは導入から3年以上が経過しデータが蓄積されつつあるが、一方で、TOEICの全学導入の動きがあり、経済学部で培ってきたTOEICを活用した英語教育法が活かされるような全学導入体制となることが望まれる。スペイン語は2009年度より導入され、これに合わせ外国語科目履修制度が簡素化される予定である。新制度は英語8単位を必修として、もう1言語8単位を選択とするものである。一見、2004年度以前の制度に似ているが、①スペイン語が導入されること、②各言語には定員を設けないこと（2004年度以前は言語ごとに定員があり、定員を超過すると希望の言語を履修できない学生がいた）、③各言語の教育目標を明確に掲げていることが大きく異なっている。英語の必修化については、現行制度でも英語を選択しない学生は10人にも満たないので、影響が微少であると判断した。言語別に履修単位数を選べなくなる点は残念であるが、スペイン語導入のために制度の簡素化が必要不可欠であり、また現行制度でも1言語8単位を選択する学生が最も多いので、現行制度を維持するよりはスペイン語を導入した方が、総合的には学生にメリットがあると考えた。

学内第三者評価

2003年度に設定した目標達成のための改善策のなかでも、少人数教育の充実と「経済と経済学の基礎A・B・C」の改革、連携コースは内外からの評価も高かったが、その成果に関する今後の検証を大いに期待したい。また、外国語教育の自由化と多様化については、スペイン語導入による第二外国語の選択肢が拡大され、英語重視の傾向に対してどのような影響を及ぼすか期待される。TOEICのデータが蓄積されている段階であり、今後そのデータの有効な活用が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
順調に改善が進められていると評価できる。
スペイン語を導入して選択肢を増やし、英語8単位ともうひとつの外国語8単位を課すなどして、外国語教育を重視している。